

役員所感

副理事長 小嶋 宏志

全国的な社会問題である少子高齢社会。この構造的問題は社会保障制度の崩壊や経済成長の鈍化など、あらゆる面において悪影響を及ぼし、日本の成長を妨げる主たる要因となっています。地方においてもまちから賑わいを奪い、地域コミュニティの既存体系が崩れつつあり、社会は活力を失っています。生産年齢人口が減っていく事が確実な未来に、私たちはどんな魅力ある郷土を創って行くことが出来るか、真剣に考える必要があります。

それらを解決する一つのキーワードとして、日本JICでも取り組んでいる「共感経済社会」という考え方があります。目に見えない資本を使って目に見えない価値を生み出す。人と人のつながりが、地域を変え日本を変えていく。社会貢献は今までの様にただ与えるだけではなく、まちづくりに好循環で回る経済の仕組みができれば、地域に自然に循環し、ソーシャルビジネスとして世の中が変わって行くというものです。本年、重点的に取り組むべき社会課題である地域活性による交流人口拡大・地域資源を活かした地域再興・スポーツを通じたまちづくり・AI社会への教育マッチング。今まであまり取り組みの無かったテーマへ一辺倒なやり方では無く、運動を興す側、運動に参画する側にWIN-WINの関係性を創る事が単年度で終わる事の無い、市民を魅了するような共感を呼ぶ運動に繋がると捉え、目に見えない価値へ新たなる波及性のある運動を興す事が重要です。市民活動の台頭により「JICもある時代」と言われて久しく、我々の運動を変革の能動者たるものにするには、次世代の社会変革を興すような先駆的な市民運動が必要不可欠だと考えます。

地方創生は既存の概念を打ち破り、戦略を持って地域の特色を最大限に引き出して行かなければ、まちの賑わいを創出する事は出来ません。上越JICと市民とが一枚岩となり、青年らしい斬新な発想と無限の想像力を武器に、共創と呼べる運動を展開して行きます。